

「地域と学校が連携・協働した取組に関する調査」結果概要

1 調査テーマ

「地域と学校が連携・協働した取組について」

2 趣旨

平成27年12月21日に中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」が出され、従来の学校支援地域本部、放課後子供教室、家庭教育支援チーム等の活動をベースに、「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を図り、組織的・継続的な仕組みとして、新たな体制としての「地域学校協働本部」へ発展させ、地域学校協働本部が、早期に全小中学校区をカバーして構築されることを目指している。

については、地域と学校の協働の推進のあり方や方向性の参考とするため、小中学校に対し、「地域と学校が連携・協働した取組について」調査を実施した。

3 調査対象

公立小中学校（名古屋市を除く。） 小学校 706校（うち分校1校）、中学校 304校

4 調査結果

別紙「地域と学校が連携・協働した取組に関する調査結果」のとおり

5 概要

- ・ ほとんどの学校が、協働活動の取組を進めていると回答している。（問3）
- ・ 協働活動の主な担当は、教頭が圧倒的に多い。内容や行事によって担当を分けている場合でも教頭が含まれており、ほとんどの学校で教頭が担っている。（問4）
- ・ 活動内容は、小学校では子供の安全確保、読み聞かせ・読書活動、校内環境整備が多く、中学校では部活動指導、校内環境整備、学校行事の支援、が多い。（問5）
- ・ 学校の情報については、主にホームページや学校行事への招待、学校・学年だよりの配布・回覧により発信している。（問6）
- ・ コーディネーターの役割を担っている人は、現職の教職員やPTA関係者が多い。小学校では、自治会関係者も担っている。（問7）
- ・ コーディネーターに期待していることは、地域支援者とのマッチング・活動計画立案・日程調整等、地域支援者の発掘、学校・子供や地域のニーズ・状況把握が多い。（問8）
- ・ コーディネーター及び地域支援者の発掘方法はPTA、地域団体等、教職員からの紹介が多いが、コーディネーターについては「探していない」学校が最も多い。（問9）
- ・ 地域との協働活動は、ほとんどの学校が円滑に進んでいると回答している。（問10）
- ・ その理由としては、地域の方の協力がある、PTAとの連携が良好であるととともに、従前から行っていることを挙げている。（問11）

- ・ 少数だが、円滑に進んでいないことの理由は、教職員が行う余裕がない、学校内の体制整備が十分されていない、が多い。また、小学校ではコーディネーターがいないこと、中学校では三者で取組の目的が共有できていないことも理由として挙げられている。(問 12)
- ・ 学校支援の取組を導入した当初のねらいは、小学校では、登下校時の子供の安全確保が最も多い。また、小中学校とも「子どもたちの地域に対する興味関心が高まる」、「学校と地域の連携が深まり、交流の機会が増える」という回答が多く、同程度の成果を上げている。(問 13)
- ・ 今後の協働活動の目指す目標・意義は「地域の教育力を活用した学校教育の充実」が最も多い。(問 14)
- ・ 協働活動の取組を推進させていくための方策としては、「学校における地域との協働活動の方針や位置付けの明確化」が一番必要と考えている。その次に、「学校教職員の理解の促進」が必要と考えられている。(問 15)

6 考察及び課題

- ・ 小学校では、98.9%、中学校においても96.4%の学校で協働活動の取組は進められており、地域差はあっても、学校と地域の関わりは深いと考える。
そのうち、地域との協働活動が円滑に進んでいると思っている学校は8割を超えているが、活動内容は学校支援となっているものが圧倒的であり、文部科学省の提言する「地域学校協働活動」かどうかは判断できない。
- ・ 担当職員は教頭が圧倒的に多い。また、コーディネーターの役割も現教職員が担っていることから、多くの教頭が地域との連絡調整も行っていると考ええる。
- ・ コーディネーターの役割を担っている人は、職員以外では現PTA関係者が多く、PTA活動の延長線上にある活動となっているのではないかと。また、PTA関係者の負担も多くなっているのではないかと。
PTA役員の負担もあるが、PTAとの関係が良好であり、仕組みができているのであれば、それをベースに拡充していくのも一つの方法ではないかと考える。
- ・ コーディネーターは4割程度の学校では探していない。教頭、PTA役員が担っている活動が多く、学校外にコーディネーターを求めていこうとしていないのか。外部の方が入ることにメリットを感じていない可能性がある。
地域支援者も含め、身近な方から紹介していただくことが多く、現在関わっている方々からの情報に頼っている傾向があると考ええる。
- ・ また、コーディネーターも担っている教頭が、「地域支援者とのマッチング、計画立案、日程調整等」、「地域支援者の発掘」の期待に応えていく体制では、本来の職務にも支障があり、教頭のさらなる負担につながり、拡充の方向に向かうことは難しい。
- ・ 一層多忙化に拍車がかかることを懸念しているため、現状で十分と判断し、「社会に開かれた教育課程」という考えにまでは至っていないと思われる。
- ・ その様子が、「教職員が行う余裕がない」という回答に表れており、協働活動が円滑に進んでいない理由としても挙げられている。
校内の体制整備とともに、地域の協力によって活動が推進されるような体制づくりが望まれる。

- ・ 地域からの支援を導入した当初のねらい、成果・効果は、「子どもたちの授業に対する興味関心、地域に対する興味関心が高まる」、「学校と地域の連携が深まり、交流の機会が増える」ことを挙げている。

学校教育の充実には意識があるが、地域の教育力の向上や地域住民のやりがいといった地域側の思いや考えに対する意識は低い。

さらに、地域の活性化につなげたいという思いはあるものの、そうした場を提供することが、地域の方の生きがいや自己実現に資するものであると考えている学校は少ない。

地域協働活動の理念を理解し、先行事例における“地域への効果”を発信していくなど、今後の地域と学校の連携のあり方を校内職員にも周知していく必要がある。

- ・ 今後、地域との協働活動の目指す目標、意義については、「地域の教育力を活用した学校教育の充実」が多く、学校側は地域の教育力をもっと活用したいと思っているのではないかと。

他の選択肢からも、学校教育の充実と地域の教育力向上の両方の視点が多い。

新学習指導要領を鑑み、「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて取り組む必要がある。

- ・ 今後、地域との協働活動を進めていくために、「学校における地域との協働活動の方針や位置付けの明確化」が必要であるとの回答が多いことから、概ね円滑に進んでいると思っても、方針や位置付けが明確になっていないため、改善の必要性は感じていると思われる。

現存の、例えば学校評議員会や学校運営協議会を活用し、学校と地域が理念や方針を共有して連携・協働につなげていきたい。

また、行政への要望も多いことから、学校が主体的に活動できていないことが想定され、体制を整えるためには、行政が少なくとも立ち上げのバックアップをしていく必要がある。

さらに、その他の意見として、予算措置、担当教員の加配やコーディネーター等の配置、又は時間の確保等もあり、現状のまま進めていけば多忙化につながることを想定していると思われる。

7 まとめ

学校と地域との連携については、地域の実情や学校の規模により大きな差があり、相互のニーズにも違いがある。

今回調査した結果、学校は、「学校と地域との協働活動」は円滑に進んでいると捉えているが、現状では、教頭への負担が多いと思われるため、今のままで十分であると思っている可能性も高く、新たな取組に躊躇することが多いのではないかと。

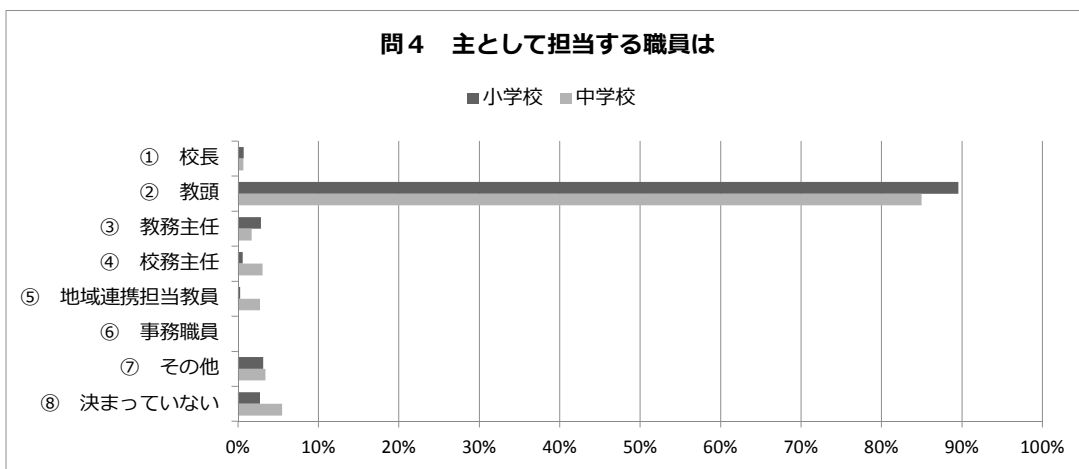
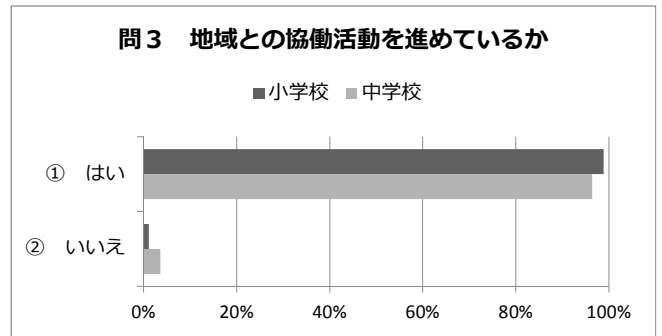
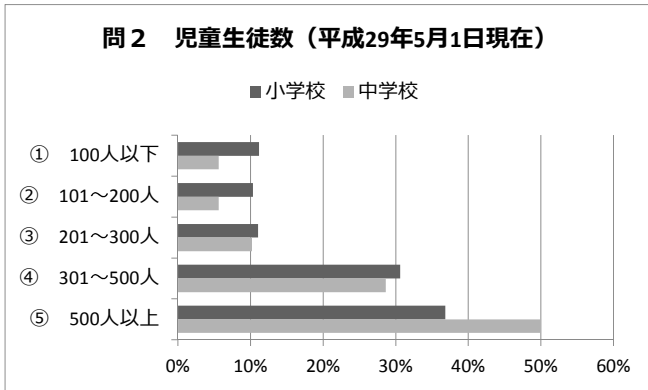
よりよい協働活動にしていくためには、地域との協働活動の方針や位置付けを明確にし、活動を展開していくことが必要だと考えている。

そのためには、学校と地域をつなぐコーディネーターを配置することが望まれており、併せて、コーディネーターが主体的に活動を展開することができるよう、校内の空き教室や公民館等の社会教育施設を活用した拠点（本部）が必要だと考える。さらには、予算面など行政によるサポートも必要である。

①コーディネーターの配置、②活動拠点の設置、この2つの方策が実現され、理念や方針を共有するための地域と学校の会議を設置することなどにより、地域学校協働活動の推進が図られ、学校教育の充実、地域の教育力の向上、ひいては教員の多忙化解消にもつながっていくものであると考える。

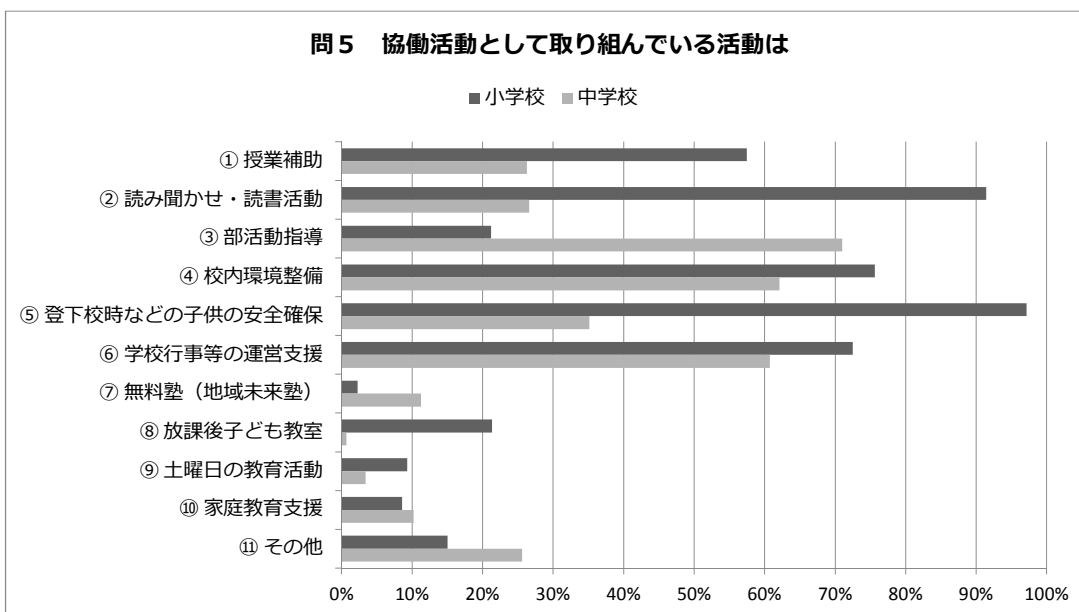
行政としても、地域の人的・物的資源を学校側が活用しやすい環境を整える必要がある。

地域と学校が連携・協働した取組に関する調査結果



その他

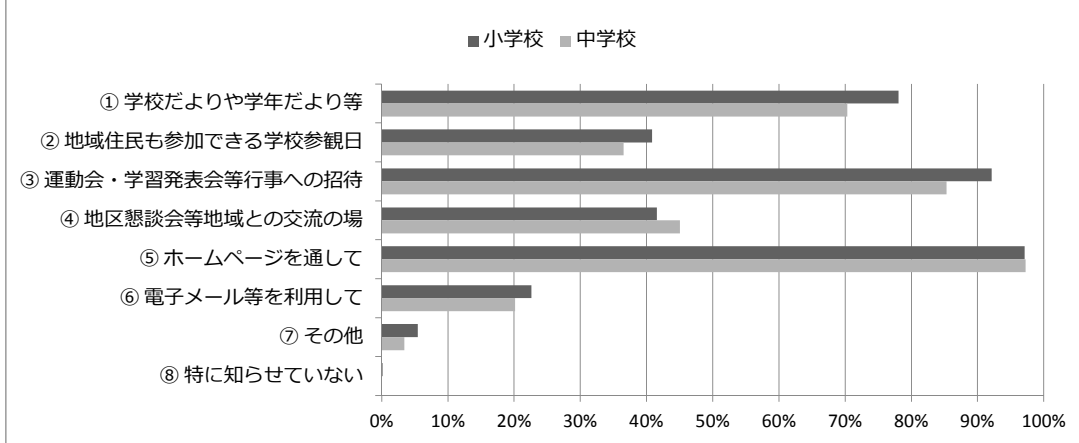
- ・活動の内容に応じて関わる職員が異なっている。
- ・地域支援団体に担当教員を決めて対応している。
- ・学年主任 ・学年担当者 ・主幹教諭 ・司書教諭 ・各行事担当者



その他

- ・地域行事への参加 ・清掃活動 ・あいさつ運動 ・職場体験 ・生徒指導上の見守り
- ・クラブ活動 ・夏季休業中の補習の補助、校外指導 ・総合的な学習の時間 ・プール開放
- ・外国籍児童生徒への支援 ・保護者の日本語教室 ・生徒ボランティアを地域に派遣

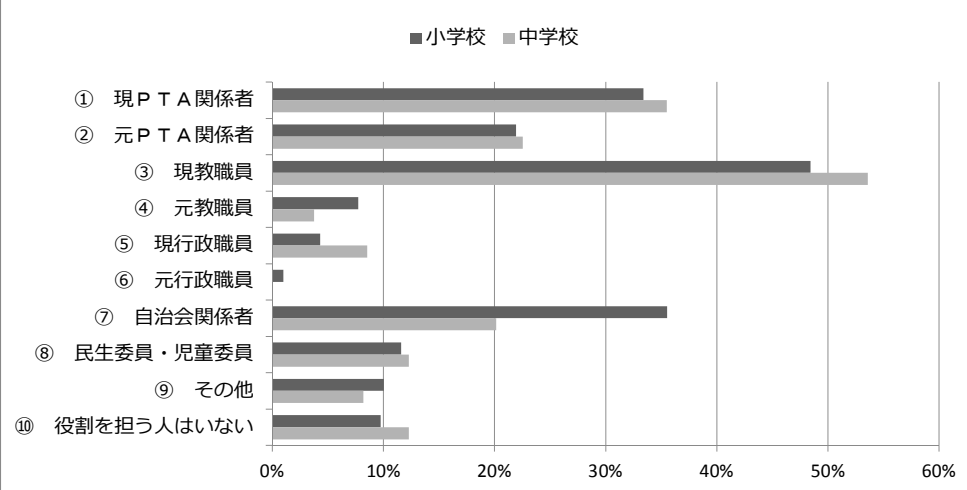
問6 地域住民への学校情報の発信方法は



その他

- ・学校運営協議会 ・地域回覧板 ・P T Aだよりの配付、回覧 ・公民館等に学校だよりを掲示
- ・地域住民参加の行事で ・ブログで発信 ・独居老人宅訪問

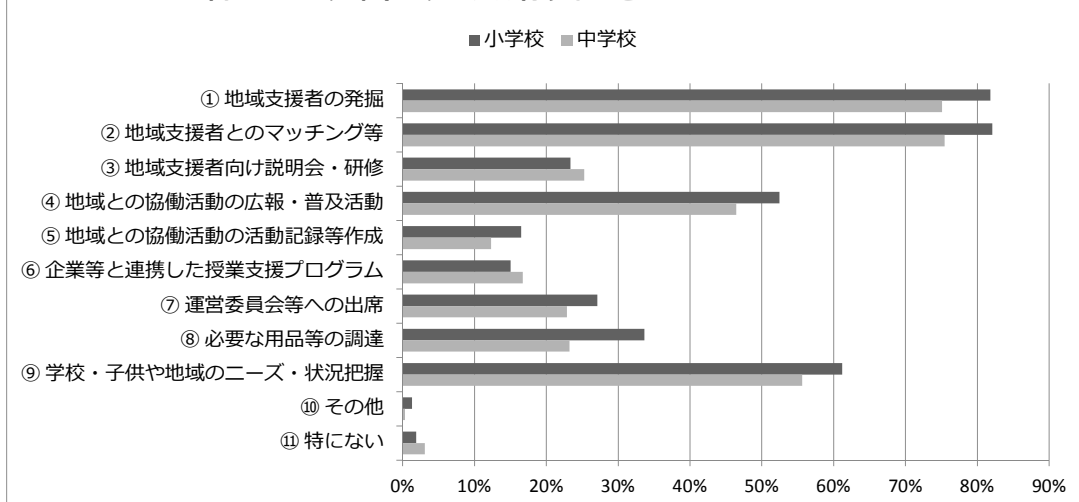
問7 コーディネーターの役割を担っている方は



その他

- ・学校サポーター ・学校運営協議会委員 ・学校評議員 ・教育委員 ・大学関係者
- ・児童館、公民館 ・おやじの会 ・N P O ・同窓会 ・卒業生

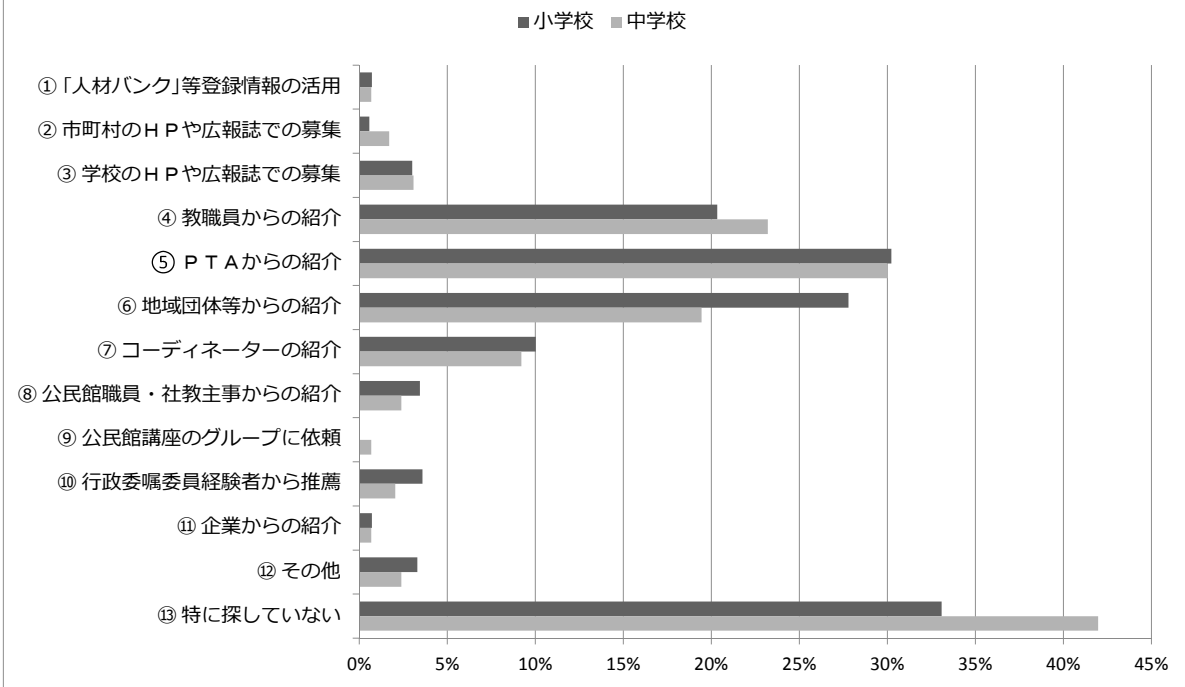
問8 コーディネーターに期待することは



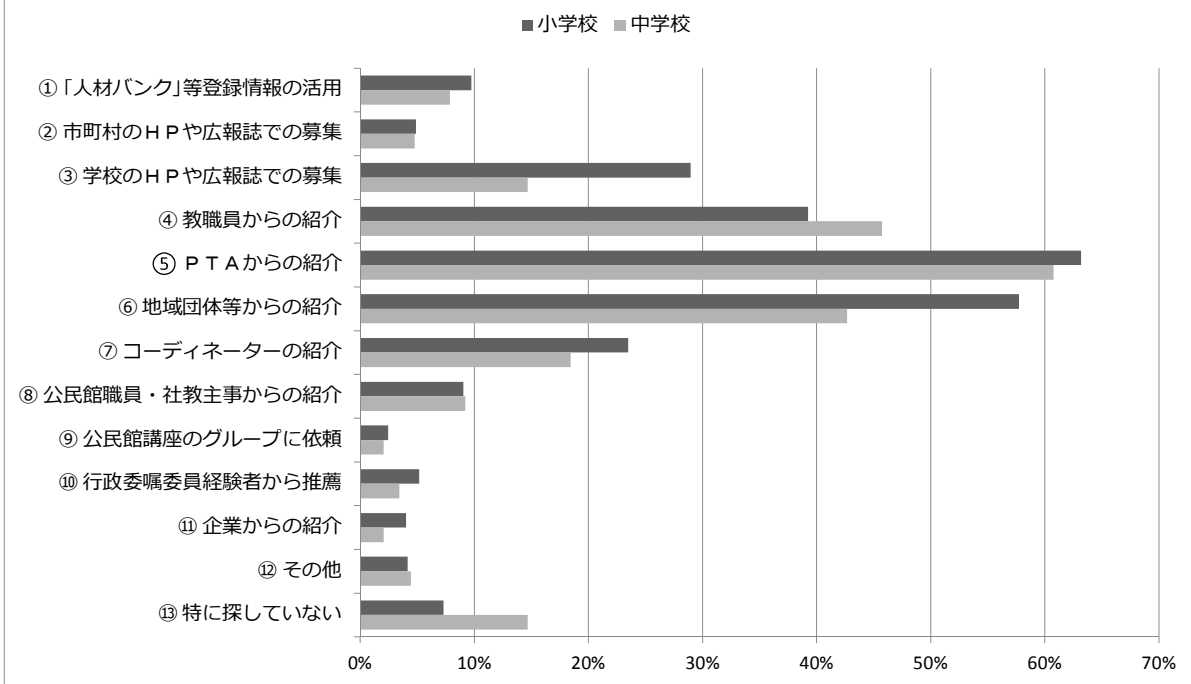
その他

- ・教育活動の支援 ・先進的な協働活動の紹介 ・時間の確保 ・経費の確保
- ・地域の中から主体的に出てくること

問9-1 コーディネーターの発掘方法は



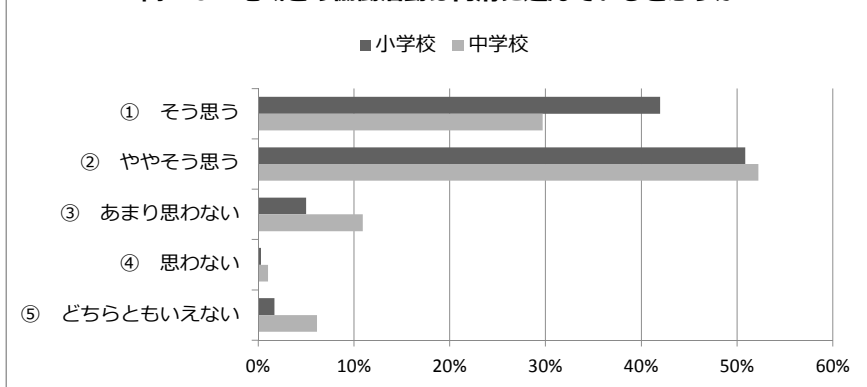
問9-2 地域支援者の発掘方法は



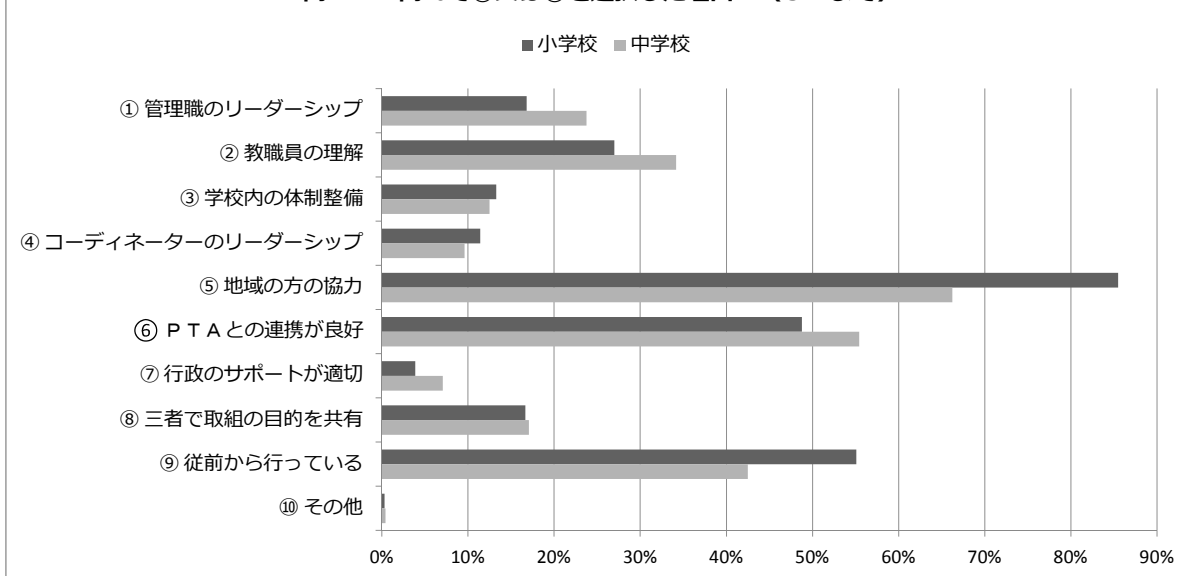
その他

- ・学校から直接依頼
- ・前任者から引継ぎ
- ・PTA総会で募集
- ・行政又は行政からの推薦
- ・町内会で組織されている
- ・大学からの紹介
- ・同窓会からの紹介
- ・今までの実績から
- ・元教員

問10 地域との協働活動は円滑に進んでいると思うか



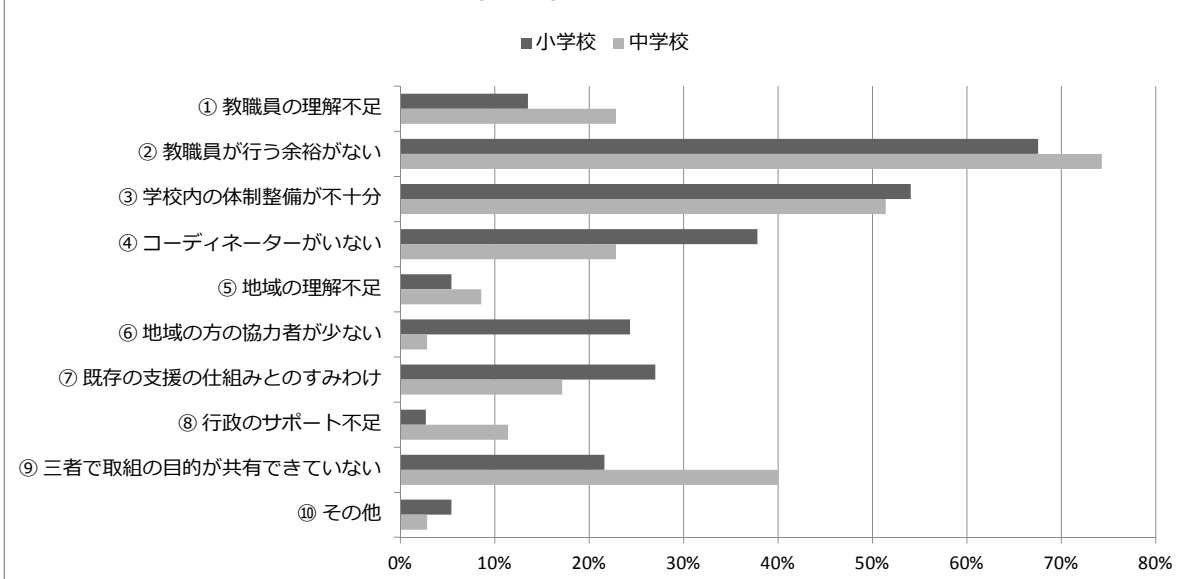
問11 問10で①又は②を選択した理由 (3つまで)



その他

- ・コミュニティスクールとしての仕組みができているため、各団体の方の理解を得やすい
- ・家庭教育推進委員会との連携

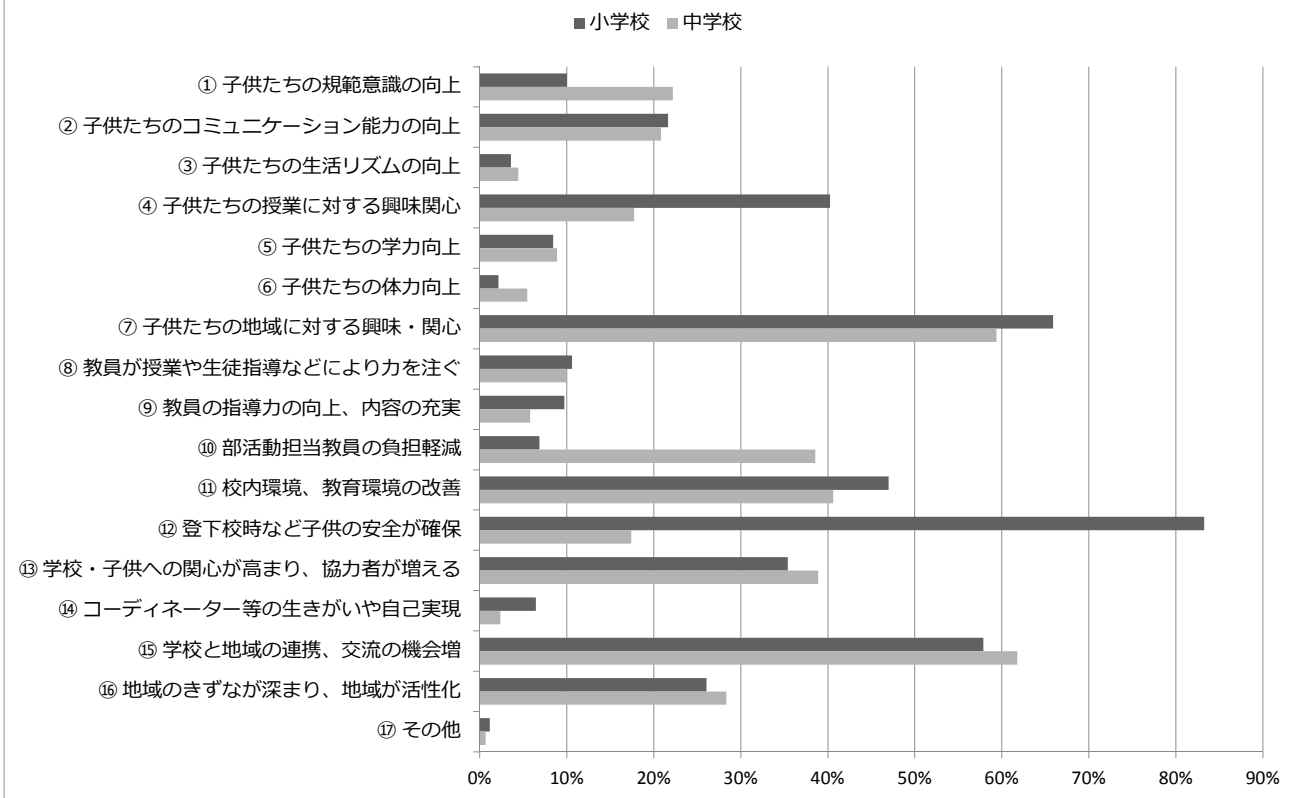
問12 問10で③又は④を選択した理由 (3つまで)



その他

- ・以前から校区コミュニティや自主防災があり、それぞれの行事に参加するだけで協働といえるかどうかわからない。
- ・適当な人材がいない
- ・学校が地域から離れており、地理的悪条件のため

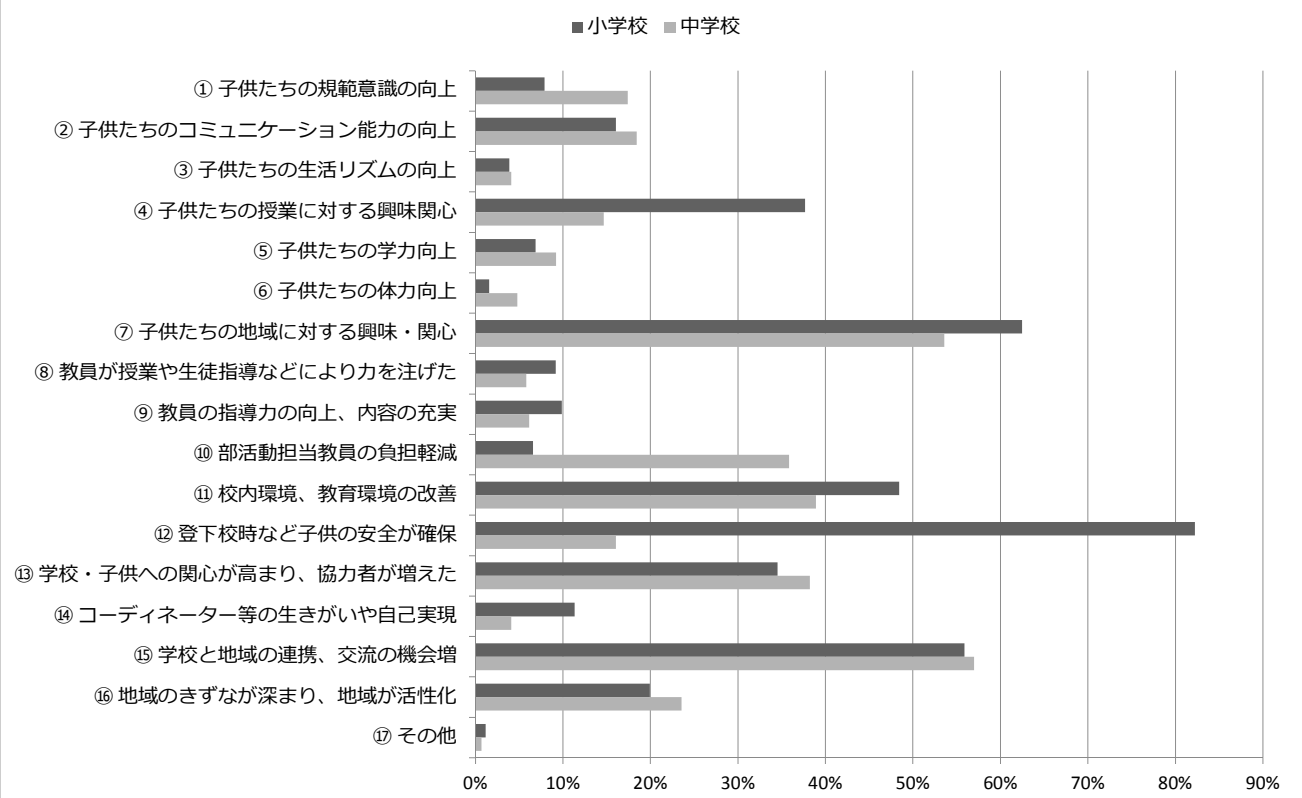
問 1 3-1 地域の支援を導入した当初のねらいは (5つまで)



その他

- ・教職員の負担軽減 ・地域の教育力の活用
- ・地域の中の学校として、温かな目で子どもを見守る多くの協力者と手を携えて、特色ある学校づくりを推進する。

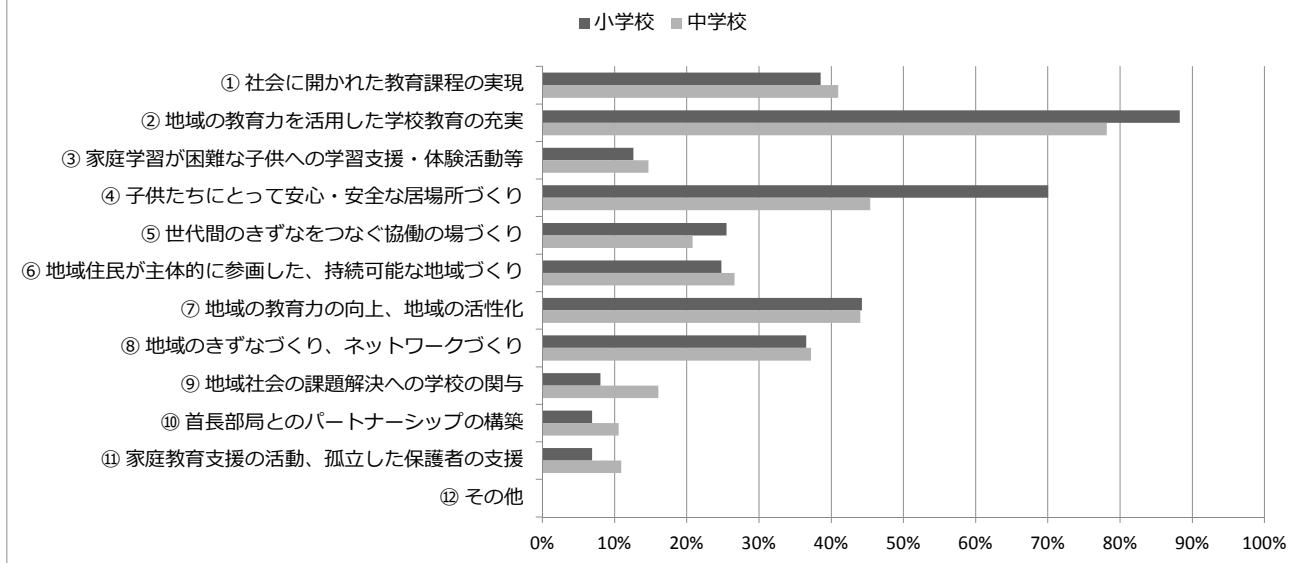
問 1 3-2 地域の支援を導入した現時点での成果・効果は (5つまで)



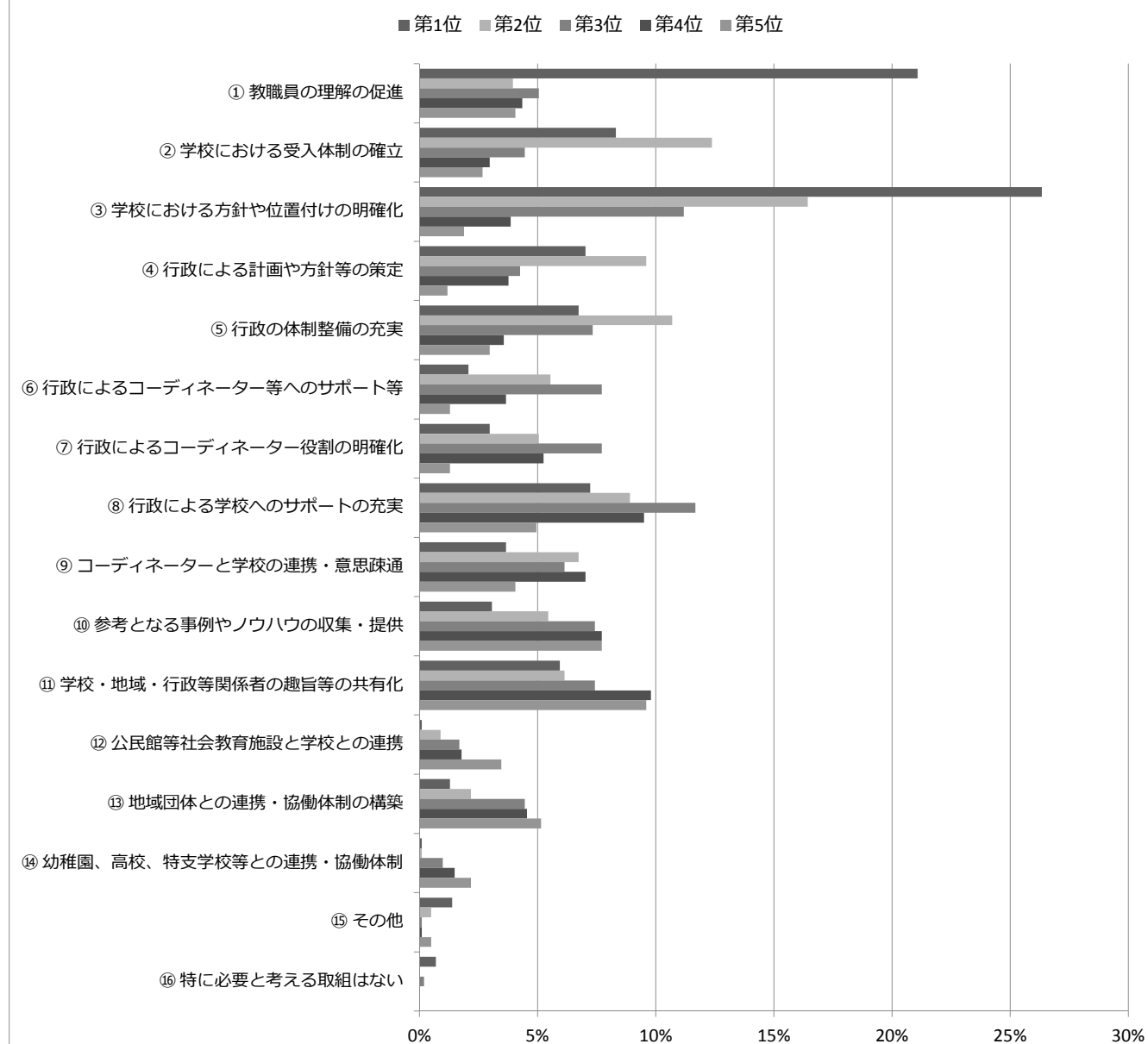
その他

- ・教職員の負担軽減 ・読書に対する興味関心が高まった
- ・まだ始めたばかりで、目に見える成果はない。

問 1 4 今後の地域との協働活動の目指す目標・意義について (4つまで)

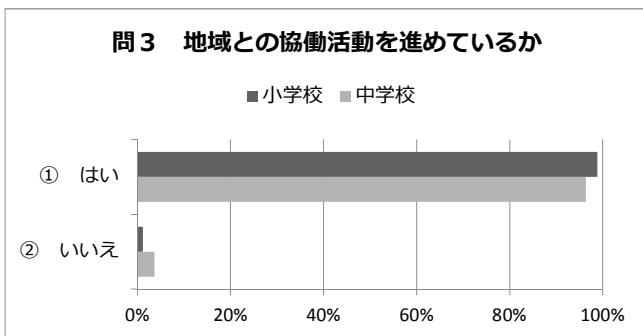


問 1 5 地域との協働活動を進めるために、今後必要だと考える取組は (必要だと考える順に5つまで)



その他

- ・コーディネーターを地域（教職員以外）で担うこと
- ・教室以外の活動場所がない。活動場所や施設の充実が必要
- ・地域との協働活動の必要性は、理解できる。しかし、このまま進めていくと、学校がコーディネーターを行うことになる。しかし、今のままの学校体制では、それを行う余力がない。
- ・地域学校協働本部の設置、地域コーディネーター、統括コーディネーターの配置などに対する行政のリーダーシップ
- ・地域住民の生活における余裕と参加できる地域住民が多いこと
- ・道徳の教科化、英語科の導入など、新指導要領実施にむけての準備があり、教員の多忙化が進んでいる。
- ・正直なところ、地域との協働活動を今まで以上に進める余裕はない
- ・校区自治会との連携が中心であるため、必要以上に広げても自治会自体が1年交代なので、引継にも温度差があり、現状維持または、要請のある時に支障がない範囲で取り組んでいきたい。



「問3」で「いいえ」と回答した学校の記述から

- ・現在のところ、あまり必要性を感じていないから。
- ・必要に応じて地域と連携・協力している。取り立てて協働活動を進める必要性を感じない
- ・地域の関係組織との話し合いの場が、まだ準備できていない。今後の課題としたい。
- ・協働活動を行うための体制が整備されていない。
- ・教職員に地域との協働活動を行う余力がない。
- ・部活動担当教員の負担が課題であるが、地域との協働活動を整えていく見通しが立たない。
- ・PTA活動によって、おおむね学校支援が満たされている。また地域も高齢化が進み、地域からの申し出がないと学校主導では動きにくい実情もある。
- ・本校では、PTAや校区の自治会を中心とした活動体系において、十分に子供たちの成長を育むことができていると感じている。その中で、地域との協働活動が、今後子供たちの成長を見据え、大切であると感じるならば、連携・協力し、取り組んでいきたい。
- ・地域行事等へのボランティア活動を推進しており、地域の一員として、地域を担う人材となる生徒の育成を目指して、地域との協働活動を行っているため。

地域と学校が連携・協働した取組に関する調査票

用語について：この調査では下記の用語を下記の意味で用いていますので、ご注意ください。

【地域との協働活動】：学校が、地域の人材、NPO等と連携・協力して、学校の授業や行事等の教育活動を始め、校舎や校庭の維持・管理、児童生徒の安全確保、放課後や土曜日の教育活動、家庭教育支援活動など、学校における教育を直接・間接を問わず支援することにより、地域を創生する活動をいう。（従来の学校支援活動も含む。）

【コーディネーター】：効果的に地域と学校との協働活動が行われるよう、学校のニーズに基づき、地域の人材等（ボランティア）と学校の橋渡し役を担う人をいう。

【地域支援者】：学校を支援する地域やNPO等のボランティアをいう。

市町村名

問	質問項目
---	------

回答欄

◎ 該当する番号を選択してください。

黄色セル：プルダウンリスト選択

1 貴校の学校種を選択してください。

- ① 小学校 ② 中学校

--

2 貴校の児童生徒数（H29.5.1現在）を選択してください。

- ① 100人以下 ② 101～200人 ③ 201～300人 ④ 301～500人
⑤ 500人以上

--

3 貴校では、地域との協働活動の取組を進めていますか。

- ① はい ② いいえ

※ 「いいえ」を選択した場合は、問16に進んでください。

--

4 貴校において、地域との協働活動を担当する職員は、主としてどなたですか。

- ① 校長 ② 教頭 ③ 教務主任 ④ 校務主任 ⑤ 地域連携担当教員
⑥ 事務職員 ⑦ その他（具体的に） ⑧ 決まっていない

「その他」記入欄↓

5 貴校で地域との協働活動として取り組まれている活動に「○」を付けてください。
（複数回答可）

- ① 授業補助
② 読み聞かせ・読書活動
③ 部活動指導
④ 校内環境整備（校庭維持管理・図書室整備等）
⑤ 登下校時などの子供の安全確保
⑥ 学校行事等の運営支援
⑦ 無料塾（地域未来塾）
⑧ 放課後子ども教室
⑨ 土曜日の教育活動
⑩ 家庭教育支援
⑪ その他（具体的に）

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
「その他」記入欄↓	

6 貴校では、児童生徒の家庭以外の地域住民に対して、学校の情報をどのように発信していますか。該当するものに「○」を付けてください。（複数回答可）

- ① 学校だよりや学年だより等を配布・回覧している
- ② 地域住民も参加できる学校参観日を設けて発信している
- ③ 運動会・学習発表会等行事への招待を通して発信している
- ④ 地区懇談会等地域との交流の場において発信している
- ⑤ ホームページを通して発信している
- ⑥ 電子メール等を利用して発信している
- ⑦ その他（具体的に）
- ⑧ 特に知らせていない

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
「その他」記入欄↓	

7 貴校と地域との協働活動を進める上で、どのような方がコーディネーターの役割を担っていますか。（複数回答可）

- ① 現PTA関係者 ② 元PTA関係者 ③ 現教職員 ④ 元教職員
- ⑤ 現行政職員 ⑥ 元行政職員 ⑦ 自治会関係者
- ⑧ 民生委員・児童委員 ⑨ その他（具体的に） ⑩ 役割を担う人はいない

「その他」記入欄↓

8 貴校が地域との協働活動を進める上で、コーディネーターに期待することはどのようなことですか。該当するものに「○」を付けてください。（複数回答可）

- ① 地域支援者の発掘
- ② 地域支援者とのマッチング・活動計画立案・日程調整等
- ③ 地域支援者向け説明会・研修の企画・実施
- ④ 地域との協働活動の広報・普及活動
- ⑤ 地域との協働活動に関わる活動記録等作成
- ⑥ 企業・NPO等と連携した授業支援プログラムの情報収集・企画・提案
- ⑦ 地域との協働活動に関する運営委員会等への出席
- ⑧ 地域との協働活動に必要な用品等の調達
- ⑨ 学校・子供や地域のニーズ・状況把握
- ⑩ その他（具体的に）
- ⑪ 特にない

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
「その他」記入欄↓	

9 貴校では、コーディネーター及び地域支援者をどのように発掘していますか。該当するものに「○」を付けてください。（複数回答可）

- ① 「人材バンク」等登録情報の活用
- ② 市町村のホームページや広報誌での募集
- ③ 学校のホームページや広報誌での募集
- ④ 教職員からの紹介
- ⑤ PTAからの紹介
- ⑥ 地域団体等からの紹介
- ⑦ コーディネーターの紹介
- ⑧ 公民館職員・社会教育主事からの紹介
- ⑨ 公民館講座のグループに依頼
- ⑩ 社会教育委員等行政委嘱委員経験者から推薦
- ⑪ 企業からの紹介
- ⑫ その他（具体的に）
- ⑬ 特に探していない

	コーディネーター	地域支援者
①		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
「その他」記入欄↓		

- 10 貴校では、地域との協働活動は円滑に進んでいると思いますか。
- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまり思わない ④ 思わない
⑤ どちらともいえない

--

- 11 上記「問10」で「①」または「②」を選択した学校に伺います。
その要因として考えられることは何ですか。該当する主なものを選択してください。（3つまで）

- ① 管理職がリーダーシップを発揮しているから
② 教職員の理解が得られているから
③ 学校内の体制が整備されているから
④ コーディネーターがリーダーシップを発揮しているから
⑤ ボランティアなど地域の方の協力があるから
⑥ P T Aとの連携が良好だから
⑦ 行政のサポートが適切だから
⑧ 学校・コーディネーター・地域などの間で取組の目的が共有できているから
⑨ 従前から地域との協働活動を行っているから
⑩ その他（具体的に）

1	
2	
3	
	「その他」記入欄↓

- 12 上記「問10」で「③」または「④」を選択した学校に伺います。
その要因として考えられることは何ですか。該当する主なものを選択してください。（3つまで）

- ① 教職員の理解が不足しているから
② 地域との協働活動を教職員が行う余裕がないから
③ 学校内の体制が十分整備されていないから
④ コーディネーターがないから
⑤ 地域の理解が不足しているから
⑥ 地域の方の協力者が少ないから
⑦ P T Aや既存の支援の仕組みとのすみわけがうまくできていないから
⑧ 行政のサポートが不足しているから
⑨ 学校・コーディネーター・地域などの間で取組の目的が共有できていないから
⑩ その他（具体的に）

1	
2	
3	
	「その他」記入欄↓

- 13 貴校において、地域の支援を導入した当初のねらい、また、現時点での導入した成果・効果について、それぞれに該当する主なものを選択してください。（5つまで）

- ① 子供たちの規範意識の向上につながる（つながった）
② 子供たちのコミュニケーション能力の向上につながる（つながった）
③ 子供たちの生活リズムの向上につながる（つながった）
④ 子供たちの授業に対する興味関心が高まる（高まった）
⑤ 子供たちの学力向上につながる（つながった）
⑥ 子供たちの体力向上につながる（つながった）
⑦ 子供たちの地域に対する興味・関心が高まる（高まった）
⑧ 教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができる（できた）
⑨ 教員の指導力の向上、内容の充実につながる（つながった）
⑩ 部活動担当教員の負担軽減につながる（つながった）
⑪ 校内環境、教育環境の改善が図られる（図られた）
⑫ 登下校時など子供の安全が確保できる（できた）
⑬ 学校・子供に対する関心が高まり、協力者が増える（増えた）
⑭ コーディネーター・地域支援者自身の生きがいや自己実現につながる（つながった）
⑮ 学校と地域の連携が深まり、交流の機会が増える（増えた）
⑯ 地域のきずなが深まり、地域が活性化する（した）
⑰ その他（具体的に）

	当初の ねらい	現時点 成果等
1		
2		
3		
4		
5		
	「その他」記入欄↓	

14 貴校において、今後の地域との協働活動の目指す目標・意義について、該当する主なものを選択してください。（4つまで）

- ① 社会に開かれた教育課程の実現
- ② 地域の教育力を活用した学校教育の充実
- ③ 家庭での学習が困難な子供たちへの学習支援や体験活動の機会の充実
- ④ 子供たちにとって安心・安全な居場所づくり
- ⑤ 世代間のきずなをつなぐ協働の場づくり
- ⑥ 地域住民が主体的に参画することによる、持続可能な地域づくり
- ⑦ 地域の教育力の向上、地域の活性化
- ⑧ 地域のきずなづくり、ネットワークづくり
- ⑨ 地域社会の課題解決に、地域の一員としての学校の関与
- ⑩ 地域振興、社会福祉、防災等を担当する首長部局とのパートナーシップの構築
- ⑪ 様々な悩み等を相談できる家庭教育支援の活動や機能を組み込み、孤立した保護者を支援
- ⑫ その他（具体的に）

1	
2	
3	
4	
「その他」記入欄↓	

15 貴校において、地域との協働活動を進めるために、今後、どのような取組が必要だと考えていますか。特に必要だと考えるものを選択してください。

（必要だと考える順に5つまで）

- ① 教職員の理解の促進
- ② 学校における受入体制の確立の促進
- ③ 学校における地域との協働活動の方針や位置付けの明確化
- ④ 行政による地域と学校の協働活動に関する計画や方針等の策定
- ⑤ 行政の体制整備の充実
- ⑥ 行政によるコーディネーター等への資質向上・サポートの充実
- ⑦ 行政によるコーディネーターの位置付け・役割の明確化
- ⑧ 行政による学校へのサポートの充実
- ⑨ コーディネーターと学校の連携・意思疎通の促進
- ⑩ 参考となる事例情報やノウハウ・ツールの収集・提供の充実
- ⑪ 学校・地域・行政等関係者の地域学校協働活動の趣旨等の共有化の促進
- ⑫ 公民館等社会教育施設と学校との連携
- ⑬ NPO、自治会等、地域団体との連携・協働体制の構築
- ⑭ 幼稚園、高等学校、特別支援学校等との連携・協働体制の構築
- ⑮ その他（具体的に）
- ⑯ 特に必要と考える取組はない

1	
2	
3	
4	
5	
「その他」記入欄↓	

16 問3で「② いいえ」を選択した学校のみ回答してください。

貴校が、現在、地域との協働活動に取り組んでいない主な理由について、記入してください。

--